



2025.11.25 No.54

発行 泊原発の廃炉をめざす会

〒060-0808  
札幌市北区北8条西6丁目2-23-806  
TEL 011-594-8454  
FAX 011-594-8455  
URL <https://tomari816.com>  
E-mail [info@tomari816.com](mailto:info@tomari816.com)  
郵便振替口座 02790-1-100850

## 北電は再稼働に 責任を持てるのか

### 泊原発運転差止裁判と説明責任

2011年11月11日、私たちは泊原発の廃炉を求めて札幌地裁に提訴した。

それから10年余り、2022年1月18日第38回札幌地裁の口頭弁論、これ以上北電の回答は待てないとして「結審します」という裁判長のひとりで流れを止めた。その年の5月31日、谷口哲也裁判長は「津波への対策が不十分」として運転差止めを命じた。泊原発は再稼働に向けて審査中だったが、万が一に備えた安全確保策の審査を迫る判決だった。札幌地裁判決を簡潔にまとめると「北海道電力は自社が保有する原発の安全性を説明する能力に欠けている」つまり安全性を主張立証する責任が実質的には、被告北電側にあることを認める判決であった。自社の原発の安全性を説明できない企業に原発を動かす資格はない。説明責任に真摯に向き合わない北電側が自ら招いた結果であった。

津波対策の不備で運転差止めになった判決は泊原発が全国初となった。

### 原子力規制委員会

北電は再稼働を目指した規制委の審査で、説明能力が疑問視されてきた。当時の規制委更田豊志委員長が、問われているのは「原発の安全性の説明・立証を行う当事者能力」であり、規制委は「専門的な議論に応じられる人材が社内不足している」とまで指摘していた。

その後、規制委側が事前に技術的課題を整

理し論点を示す「泊スペシャル」と呼ばれる審査体制を取り、2025年4月30日、泊原発3号機の再稼働に向けた安全対策が新規規制基準に適合しているとする「事実上の合格」を出した。適合性審査に申請してから過去最長の12年に及んだ。規制委の助力無くして自力で審査に進めない企業が原発を稼働させる資格と能力があるのか、そして電力会社として過酷事故に対する責任能力が北電にあるのか。

### 今後の企業としての対応は？

北電は泊原発の早期再稼働をめざす理由に、「フレキシブルな道内の電力需要の増加を理由にあげ、そのための防潮堤工事を進めている」。

津波の高さを最大15.68mと想定し、防潮堤の高さを19mとすると安全対策工事の費用は少なくとも約5150億円、当初見積額の17倍にまで膨らんだ。これは全て道民の電気料金に反映されることになり、原発が稼働すれば電気料金が下がる根拠は一つもない。役員報酬や全ての原価・燃料購入量の見直しなどの企業努力もなく、とにかく原発ありきである。

### 原発事故の責任者は？

原発の製造メーカーは、法律で製造物責任が除外されている。一方、火力、太陽光、風力発電のメーカーには製造物責任が課されている。この事実こそがメーカーが原発を推進することにつながっている。泊原発の製造は三菱重工である。

2022年6月17日、最高裁は福島原発事故に伴う国家賠償責任を認めない判決を言い渡した。防潮堤があっても事故を回避できなかったとして国の責任を否定した。国

の責任は認めなかったが故意や過失を問わず事業者の賠償責任は認めている。

### 原発推進への流れ

当時の岸田政権は少しずつ原発推進へとシフト変更していき、2023年2月「GX」を閣議決定し、原子力政策に大転換した。

福島第一原子力発電所事故以降、「原子力依存度を可能な限り低減する」との文言を初めて削除、原発の建て替えにも言及するなど、原発が安価な脱炭素電源であるとして着々と原発推進へと移行していった。

そして2025年7月30日、規制委は北電の安全対策は妥当として、泊3号機再稼働の前提となる新規規制基準審査の正式合格を発表した。

### 再稼働への不安

再稼働には防潮堤などのハード面の整備だけでなく、10年以上停止している原発の経年劣化や原発を動かした経験のない社員が半数を超えるなど不安材料が山積している。中堅・若手の人材育成を高浜原発などの電力会社へ出向させ、付け焼刃的に稼働中の原子力発電所で業務を経験させ、なりふり構わず泊再稼働に向けて動いている。

北海道電力という電気事業者は、残念ながらほかの電気事業者に比べ原発を動かす能力も責任も足りない。通常稼働業務でさえ不安なうえに、事故や避難などの安全対策に関して経験不足、予測能力の欠如など不安要素だらけである。北電は自らの能力を冷静に認識し、泊の再稼働を断念するとともに原発事業からの撤退を決意すべきである。

文責：事務局

控訴審口頭弁論

2025年12月26日(金)

14:30から

場所/札幌高等裁判所

# 北海道電力主催 泊原発の安全対策等に関する説明会

10月1日 釧路会場

釧路連絡会

マシオン恵美香

説明会は釧路プリンスホテルで開催された。説明会に先立ち、脱原発ネット、泊原発の廃炉をめざす会、釧路連絡会の仲間など有志10名ほどが横断幕、幟などを掲げてミニ集会を行った。

150名以上は座れる広間に市民30名程度を含め、北海道電力側の説明者など約40名が着座し、途中で釧路市議会議員が参加した。

予測に反し、撮影・録音ともに禁止されず、開会直後、司会者から「会場内の様子を撮影する場合に、後方の報道用席の位置から参加者の顔が映らないよう、他者に迷惑が掛からないように配慮してほしい」とのお願いがあった。

安全対策に関するシヨートムービー10分程度、原子力事業担当部長佐々田部長が配布資料に沿って30分程度説明があった。

## 質問者発言の主な内容

火山対策（火山灰40cmの降下にも対応できるという評価は甘すぎる）

■地震動 693ガルの評価 基準地震動を何を比較したのか

■老朽している泊原発は不採算事業ではないか 残りの稼働可能期間に回収見込みがあるのか

■電気料金への影響どのくらい？すぐに廃炉にした場合の経費負担の比較をすべき

■説明ではCO2（二酸化炭素）には触れていたが、熱排出量は100%放出している 地球温暖化対策にならないのでは？

■プルサーマルでMOX燃料を使用する？ 使用済MOXの始末は？

■放水砲 効果があるのか、訓練は？水を撒いて放射性物質を打ち落とす成果が得られるという確証あるのか

■定期点検にも2000人近くの確保できる経験知見のある人材を十分確保できるのか

■原発を止めるという選択はないのか

■安全対策しても重大事故は起り得る 原発を辞めるべき

■避難訓練で住民を確実に避難させられるか 事故想定、避難の行程や評価を具体的に

■MOX燃料は100%輸入 国内でエネルギー需給に努めるとする中に入らないのでは

■北電側回答の不備

■火山灰が40cm降下した条件下でも緊急対応社員が参集し、事故対応できる

■設置から廃炉までのライフタストを試算していない

■地球温暖化対策における原発の有用性の知見から熱排出量について尋ねられているのに「7度高い温排水を放出しているだけなので周辺の海にさほど影響がない」など回答

■MOX燃料を使用することは技術的には可能だが申請が滞っていることや、燃料価格を覘て決めている

■いずれ3号炉でプルサーマルをする時期がきたらお知らせする（高くついてもプルサーマル諦めていない）

■使用済MOX燃料の再処理問題はこれから取り組む



10月3日 帯広会場

十勝連絡会代表

中村 廣治

■質問の趣旨に答えていない回答  
■最悪のパターンの「水素爆発」が起きた場合の対策は？  
■想定していない。

■規制委員会の山中委員長は、「審査に合格したからと言って100%の安全を保障するものではない」と言っているが、「審査合格したから安全」と言えるのか？  
■そうは考えていない。現状には甘んじない。詳細設計で安全性を高めている。

■どうして3号機から先に審査したのか。  
■最新プラントが3号機で、高出力なので。

■避難計画が審査されていないがどうしてか？  
■避難計画は一義的には自治体・国がやること。  
意見北電は無責任であると指摘。

■新港建設、新港と原発を結ぶトンネルを含む道路をどうして審査していないのか？  
■他の原発でも輸送ルートについては審査していないので、対象にしなかった。

■火山噴火に対応できるのか。  
■火山の影響小さい。モニタリングしている。

■再質問事故起きた時に責任取れるのか。



**Q** 再稼働したら料金を下げるのか？

**A** 2年後に下げる予定。

**Q** 事故に対する補償の算定額を示せ。

**A** 万一事故の時は保険を使って当社が補償する。不測の時は国が事故のないように努める。

この他、高レベル放射性廃棄物、安全対策費、廃炉費用、維持費等の質問が出た。避難計画や事故時の補償問題などで責任回避の回答もあり、「説明会をやった」というアリバイづくりの様の説明会という感想を持った。

## 10月7日 旭川会場

原発ゼロをめざす旭川連絡会  
高橋 睦美

説明会はアートホテル旭川で開催された。2月の「NUMO」の説明会には100人以上の参加だったが、この日はたった36人の参加で驚いた。北電の説明は、安全対策と再稼働の必要性に終始し「安全神話」から覚めていないように感じた。

### 質問と意見

政府は「安保3文書」に基づいて、全国に弾薬庫を新增設しミサイルの配備を計画している。旭川市の陸上自衛隊近文台分屯地や上富良野町の多田分屯地への増設・配備も発表されている。留萌港は、「特定利用港湾」に指定されていることから、万が一原発が攻撃されたらどうするのか？現に、ロシアはウクライナの原発を攻撃した。北電の安全対策の説明では、同じ込めることが基本で「万が一の事故が起きても、放射性物質が外に出ないよう頑丈に囲んでいる」と言うが、閉じ込められなかったときはどうするのか？また、泊原発はテロ対策の施設を持たずに再稼働する予定だが、安全をどう確保し、建設費はいくらか？と質問した。

北電は、「炉心及び原子炉格納容器内の冷却対策」や「放射性物質の

### 拡散抑制対策」

などの説明を繰り返すだけで回答になっていなかった。また、「国際法で原発は攻撃対象ではない」「攻撃されないと思っているのか？」「建設費は1,100億円ほど」と回答。

私はこの回答を聞いて、安全対策（重大事故等対応能力の強化）の説明で、「安全対策を講じてても事故は起こりうる、安全を守るのは人との考えに立ち、平時から実践的な訓練を継続して実践している」と初めに説明したが、現実逃避としか聞こえない。これだけやっておけば大丈夫、事故は起きないとも思っているのだろうか？とため息が出た。

意見は食に関することだ。北海道は日本の食料基地で、北海道だけの食料自給率は200%にもなる。原発事故が起きれば、土壌も空気も汚染され、牛・豚・とり肉、牛乳、卵、野菜に米など大変な被害になることは十分に想像できる。「汚染された土壌は二度と元に戻らないことを肝に銘じてほしい」と伝えた。

会場からは、「オール電化で電気代が1ヵ月12万円で大変だ。北電は、原発のリスクがあるのに経済効果ばかり言つ、再稼働すれば3・11前の料金に戻るのか？」と質問した人がいた。北電は「難しい」と回答。我が家も2008年に新築した時は、オール電化



で、3年後に3・11が起き、電気代が高くて困り、2019年オール電化をやめて灯油に変えた。

事故を想定しての安全対策を講じてまで、なぜ原発なのか？使用済みピットは、あと15年で満杯になるとのこと。再稼働は、道民を危険にさらすこと間違いなし。今後でも学習し、北電の動向に注視しながら、再稼働には反対していきたい。

## 10月8日 北見会場

会員 近藤 洋子

ホテル・ベルクラシック北見で開催された説明会には21名（女性は私を含む7名）北電からは9名が参加した

会場正面の大型スクリーンには、若い社員の働く姿が映され、「万一の重大事故に備え」「想定外の事態に備え」「どんな状況にあつてもこの業務を遂行する」「いついかなるときも」「安全を守る使命」……。この繰り返しされる若い声に、いたたまれない思いで開始を待った。

北見支社長のあいさつの後、事業統括部の説明が始まった。

内容は、福島第一原発の事故でなにが起ったか、そしてそれらに対する安全設備や対策を伝えるものだった。

### 参加者の意見と質問

#### 原発について

**Q** 安全対策といって、雪だるま式に設備投資を重ねる原因は、ウランを使用するからではないか。災害時、500人が命をかけるければならない発電方法をどう考えるのか。

**Q** この巨額の費用と経験や技術で、他の発電方法に変えられないのか。

**A** 現在、風力などさまざまな発電

を行っている。原子力が優れているわけではないが、既存の施設を活用していくということ。

**Q** 莫大な安全対策費用と森林の伐採は自然破壊を伴うがいかか。

**A** 3号機を動かすために必要な費用は五二五〇億円と算定している。のちにそれは電力料金に入る。森林については、植生の維持を確認している。

### 住民避難について

**Q** 避難の困難な人の対応が全くみえてこない。

**A** 放射能で亡くなられた方はいらっしゃらないが、原子力規制庁の基準は十分とは考えておらず、さらに取り組んでいく。

● 住民を何マイクロシーベルトで動かすつもりか？

● 住民が放射能にさらされる前提でお話しされているのか？住民に対し失礼だ。

### 安全設備について

**Q** 放水砲の効果は？これは確立された技術なのか？

**A** 雨で除染されることから、効果があるものとする。

**Q** ドローンなど空からの侵入・攻撃への対応は？

**A** 警察が対応する

**Q** イグナイタは災害時使えるのか

**A** 電気を必要としない「静的触媒

式水素再結合装置」だけで安全性は評価されている。

### 説明会について

**Q** 資料の情報が少ない。他の会場の質疑応答を開示してほしい。

**A** 一問一答では、疑問を持ったまま帰るの繰り返し。昨日の説明会でも同じ質問に同じ回答をしていた。

### その他

**Q** 東電は責任をとっていない。北電はどうか。

不安は全く消えないまま、予定時間を三十分超えて終了した。

「避難は？」「テロ対策は？」「電力金は？」という質問が続く間、私は「ちよつと待って」と叫びたい気持ちだった。「私はそんなことを聞きたいわけじゃない。」

福島第一の事故は、多くの人生を狂わした。

原発事故がなければ、家族が離ればなれにならなくてすんだのに、廃業や失業をしなくてすんだのに、転校先でいじめにあうこともなかったのに、甲状腺がんと闘わなくてすんだのに、住み慣れた土地で、大好きな景色に囲まれて暮らせたのに。どれだけの人が怒り、泣き、苦しんだか！  
私は原子力発電を全く受け入れられない。

## 10月14日 札幌会場

### 泊原発の廃炉をめざす会

世話人 村本 深雪

会場は旧ロイトンのグラントメルキュールホテル。参加者は概ね60名弱。北電側9名、マスコミ席7社となった。

最初は、「泊発電所の安全対策」と言う、感動的な映像。職員顔出しで仕事に誇りを持っているのがヒシヒシと伝わる。

これだけみれば、「北電とは、泊発電所とは何と素晴らしい発電所なのだろう」と、一般人は思うだろうなあ。と。続いて、パワーポイントでの説明。

安全対策では、ものすごい面積の防火帯を作っていた事を知った。写真を見てもいい感情は抱きませんでした。

休憩後は質疑応答「ここ10年、安全対策費として1兆20億かかっている。それで再稼働して値下げできるのか」北電側からの明確な返答はなかった。

稼働しているだけで放出されるトリチウムや放射線による、健康被害についての質問。

「検査はしている」と言う北電側に対し、間髪入れず「それはガンマ線だけだろう！」

無言の北電側。  
「事故が起きた時、北電の社長は責

任をとるのか」

「事業所として責任はとります」

「東電の経営陣は責任は取っていない」

「東電の時は、想定外だったから」「泊に自分たちは住みたいか？家族を住まわせたいか？」という質問に対し、「私も泊発電所勤務でもちろん家族も住んでいたとの答え。」

質問に関しては、以前からみたら北電側は丁寧ではない。

何度もやっていて、同じ質問で面倒くさいのだとは思う。圧倒的に言えることは、話が噛み合わない。北電側も言っていた。「我々とは考え方が違う」と。

やはり、避難についての質問があった。しかし、避難計画の担当は各自自治体なのだ。

北電側は、誠実にも、「我々は関係ない」などとは言わなかった。有事の際配布されるヨウ素についても、「国または、地方自治体が配布することになってい

る。」これは、再稼働に関しては、安全対策として各自自治体が市民に説明する必要があるのかと思う。



「裁判で、差し止めと判決が出て高裁にて係争中の今、再稼働するのは、司法を蔑ろにしているのではないのか？」

「蔑ろにしているつもりはない」と北電側。

メルキュールホテルの国道を挟んだ向かいには、裁判所だ。一審判決が下された、札幌地裁の8階を仰ぎながら思った「司法を、ないがしろにしているよなあ。」

最後にトリビアを一つ。

私たちは、泊にある断層「F1断層」を、「エフワン断層」と呼ぶが、北電は「エフィチ」と呼んでいました。

「昔の北電に戻ってください」と懇願した方がいらしたとか。経営陣の一人が最後まで残り、深々と頭を下げて退出していったそうです。

## 10月16日 岩見沢会場

泊原発廃炉の会・そらち

幹事長 三浦一路

説明会は岩見沢平安閣で開催されました。

ビデオ上映、配布資料説明のあと、質疑応答では質問に対するはぐらかしが続きました。

Q「想定外」や「万が一」はあつてはならない。例えば戦争についてはどう備えているのか」

A「国際ルール上は原発を攻撃してはいけないことになっている。これでは答えになっていません。国際ルールを無視した攻撃を受けた場合の備えについて質問しているのですから。」

Q「すぐお金をかけているけれども福島事故を考えると安心できない。もし事故が起こったらどう責任をとるのか」

A「1,200億円の保険をかけている。もし足りなかったら国が被災者を救済する。」

1,200億円では全然足りないし福島事故の被災者救済が不十分だから聞いているんですね。

Q「原発は確かに運転中の原子炉からはCO2を発生しないが、ウラン採掘から最終処分に至るまでのバックヤードでは大量の

CO2を排出する。石狩川の水量に匹敵する温排水も流し続けて海水を温めている。原発は地球温暖化にも悪影響を与えている。」

Aこれらの質問に対しても、軽視や無視の回答でした。

Q「敷地内に活断層があるのではないか。『無いから大丈夫』としているが。」

A「ありとあらゆる網をかけて調べ評価している。」

ならば、訴訟の争点になっている知見が網にかかるはずですよ。

Q「核」は事業者が出したもののだから、事業者が処理すべきもの。国民や国に責任転嫁するべきでない。」

A「ごもっともだと思つ。廃棄物を作ったのは私たち。処分場を決めるため理解に努める。」  
その処分場選定方法と処分方法の将来にわたる危険性、費用の税金負担のことを責任転嫁だと言っているのでしょうか。

Q「10万年経たないと安全にならない核ゴミは、稼働するともっと増える。北海道は自然エネルギーが豊富なことから、北海道電力こそ自然エネルギーの活用をお願いしたい。」

A「再生可能エネルギーに我々も取り組む。パートナー企業とともに。」

この回答だけはマトモだったと思います。原子力に費用と人手がかかるため、本当はしたくても手が回らない実情が垣間見えました。

全体を通じて、焦点ずらし・論点ずらし、すなわち「はぐらかし」を準備した上でしていたと思えます。

聞けば誰しも、原子力発電が被害の可能性に見合わない危険な事業であると北電自身が言っている気がつくでしょう。私自身も改めて恐怖を覚えました。

来場者は20人程度でしたが、もっと多くの方に来場いただくと、少しでも力を尽くすのが我々の役目だと思ひ、会場を後にしました。



写真引用先:北海道新聞

## 10月17日 室蘭会場

原発やめよう！ 登別の会

宮尾正大

室蘭会場のアパホテルでは約30人の参加。

例の如く最初に室蘭市社長の挨拶に続き、1時間ほど北電のパワポ説明があり、休憩ののち質疑応答に入りました。質疑には、北電の体質、原発の必要性、安全問題、事故対応、などの質問が多数の質問者から出されました。

## 北電への質問と回答

## なぜ再稼働

Q 資本主義国で需要、30年で2倍、いつまでも安定供給先として付き合つてゆくのか？

A 社内議論あり。エネルギーで下支えしなければならぬとの結論。

印象：永遠に付き合いたい、が本音の印象。

## 安全性

Q 原発の危険性は福島で証明済み。建設・輸送・維持でCO2を出す。脱炭素は言い過ぎ。3基も建設・経営判断の失敗ではないか？

A パンフの内容の繰り返し。失敗には答えず認めず。

## 自事故対策

Q 事故時の補償費などの積立の有無。それでは安価な原発にはならないのでは。

A 原賠法に基づき事故対応積積殺陣を行なっている。1200億円。

Q 事故が起きたとき社長は責任を取るのか？

A 現地での対策に務める。社長責任有無の回答を避ける。

印象：話さない。責任はないとの立場か。

Q ミサイル攻撃対策は？「アラートで原発止めるのか？」

A 国防は国の責務で関与せず。アラート発令時は国民保護法に則つて停止する。

印象：全て国に丸投げで、北電は考えないとの印象。あとで「アラート停止は国と逃げ」

## 避難計画

Q 事故時の避難計画は？

A 事故時は、北電は現地の対応に専念。避難計画は自治体の仕事。

印象：事前準備の話はなし。対応も出費も考えていないように観察できる。

## 核ゴミ問題

Q 使用済み核燃料の保管量、保管

法。稼働すれば増える。プルサーマルの危険性。核燃サイクル破綻について。

**A** 保管ピットに15年分の余裕あり。核燃サイクルは回るはずだから大丈夫。

### 1、2号基再稼働について

**Q** なぜ3号機からか？ 3号機のデーターを1、2号機に援用して提出して規制委指摘された為ではないか。あまりにもすごい、反省を聞きたい。

**A** しどろもどろ。意図的ではないと強弁。

印象：1、2号機再稼働は北電の全電力量の60%が泊に集中する結果になりそう。何かあれば60%電力喪失になる。ブラックアウトの危険性大。

### 全体印象

質問と回答を見ると印象はまるで禅問答のような印象でした。質問者は原発の必要性、安全性、事故対策、など基本的な、大局的な質問をぶつけるのですが、北電は絶対安全との立場認識しているわけではないらしいに立ち、話を安全論、技術論に持ち込んで回答して答えを逃げます。まさにはぐらかして自分のテリトリーに話を無理やり押し込め、用意された安全技術論に押し込めてごまかししていました。まさに通過儀礼でした。

## 10月20日 函館会場

### 大間原発訴訟の会

共同代表 中森 司

函館国際ホテルで開催された説明会は、広い会場にわずか42名の参加者しか集まらなかった。賛成の立場からの質問はゼロ。再稼働に反対する立場から7人が質問に立った。

### 主な質問

**Q** 日本には、周辺も含めて2,000の活断層が存在するが、わかっているのは1割の200と言われている2017年から地震本部が調査を始めているが、日本海側の活断層についてはあまり調査が進んでいない。特に、北海道周辺の日本海側についての評価は、いつ公表できるかわからないという。北電は、積丹半島近くに22.6kmの海底活断層を仮定、活断層が動いたときのマグニチュードは7.3とした。これに対して、変動地形学者の渡辺満久教授は活断層は約100km、マグニチュードは8.2であり、地震エネルギーの差は22.39倍であると主張している。そこで質問するが、北電職員の誰が22.6kmという数字を決めたのか。北電職員に変動地形学の専門家はいるのか。

**Q** 北電にも専門家はいるとの返答だが、論文を書いているのか。また、どの専門誌に発表したのか、答えてほしい。論文を書いていないし、発表していないなら専門家とはいえない。

**A** 返答無し

**Q** 原子力規制委員会の伴信彦委員が、6月に新潟県柏崎市での講演会で、福島第一原発事故やチェルノブイリ事故よりももっと深刻な事故は考えられる、と発言している。泊原発で事故が起これば、放射能雲が函館方面に流れてきたとき、函館市民はどこに逃げればいいのか。

**Q** 泊原発からの5km〜30kmに住んでいる人たちは、放射能雲（プルーム）を避けるため3日間自宅待機することになっているという発言だが、放射能雲は飛んでいつて無くなる訳ではない。どこかに落ちて、落ちた土地を汚染し、人間は被曝するまた、5km〜30kmに住んでいる人たちは、その後の指示で、必要なときは避難することになっている。避難させるため自衛隊員を使ってバスを運搬させるというが、一般人の年間被曝限度は1ミリシーベルトの50倍、50ミリシーベルトを超えている場合には、自衛隊員は命令に従わなくてもよいことになっている。家族のことを考えれば、すべての自衛隊員が

従うとは考えられないのではないか。

**Q** 北電はMOX燃料を使うというのは本当か。

**A** 北電の所有するプルトリウム3トンは、六ヶ所再処理工場とフランスにある。自社のプルトリウムは自社で使いたいとの返答。

**Q** MOX燃料を使うというが、稼働している原発では、燃料の三分の一まで入れるのは危険なので、ほんのわずかしか使っていない。プルトリウムは、100万分の1グラム肺に入っただけで肺がんを引き起こす猛毒である。そんな危険なものを使うのか

**A** 現在、他社で使用しているMOX燃料は11体、北電は保管していない。

**Q** 山崩れで、材木が海に入ってきたとき、泊原発にも漂流してくるのではないか。

**A** 漂流物対策はとっているが、発電所から7kmまでの対策はある。

## 10月21日 苫小牧会場

脱原発・自然エネルギーを進める 苫小牧の会  
事務局長 津田 孝（獅子吼老）

北電による説明会はグラントホテルニュー王子苫小牧で開催された。勿論、その前に「脱原発・自然エネルギーをすすめる苫小牧の会」は会場前の歩道で約30分「泊原発再稼働絶対反対」という横断幕を掲げ、再稼働反対の街頭宣伝を行った。参加者13名。

説明会には、広いホールに30人強の市民が参加、空席が目立つ。後方には報道席。写真撮影は可だが、個人が特定されることがないように後方から撮るようにとのこと。録音は個人が特定されるので不可とのことだった。

18時、開会挨拶後、以前から北電HPで公表されている説明書の最新版が約50分間パワーポイントで紹介された。休憩時間後19時から質疑応答。質疑は20時迄、質問は一人二件、二度目の質問は時間の範囲で一巡後に可。質問者は挙手し、司会指名後に居住地を述べ、その後に質問せよという。

質問内容は北電のHPに載せる場合があるとのことだ。だが、質問が相次ぎ、終了時間を20時45分まで延長したが、最終的には21時まで行われた。結局、質問二巡

目はなかった(できなかった)。

さて、質問者は全部で14名。実は、説明会前の18日、小生自ら講師になって北電の資料を使い、『泊原発が再稼働してはいけないこれだけの理由』という学習資料を作り、批判的観点からの勉強会を開いている。質問者の多くはその勉強会に参加した人だったためか、学習資料に沿うような質問が多かった。つまり、再稼働反対の立場からの質問である。

小生はウラン産出国の先住民や少数民族などが、廃鉱残土や精錬所跡の鉱滓などのために被ばくし、肺癌や白血病などで苦しんでいること、原発会社が「核植民地主義」の加担者になっていることを指摘。

また、プルサーマルなど核燃料サイクルは破綻しており、破綻の上に破綻を重ねて核ゴミを増やす再稼働は中止すべきだと強く指摘した。しかし、ウランは正規の輸入ルートを通じてのものであり、産出国の問題はその国の内政問題だ、核燃料サイクルについても将来的に解決する筈だ、などと木で鼻を括ったような答弁であった。

他に一点挙げると、複合災害時には道路の寸断、渋滞の発生などで住民が逃げられない事態になるという指摘である。北電は、住民避難は自治体が策定することが建

付けになっている、とこれまでたお決まりの答弁であった。

泊原発訴訟の行方は厳しく、再稼働の可能性は高いだろう。だが、ここが頑張り所である。



会場前で再稼働反対の街頭集会

## 10月26日 札幌会場

会員 北野 入江

会場の札幌グランドホテルには開始20分前に到着。駅前通り側の入口に「再稼働反対」のプラカードを持ってアピールしてる方がお二人。

会場に入ると中は静かで重苦しい空気。お通夜のような気分になせられる。嫌な予感。

前方の回答席に、北海道電力の黒スーツの二団。十名ばかり。

定刻に開始。10分ほどのPR動画を見せられたのち、資料説明が30分余り淡々と続く。休憩後、やっと質疑の時間になる。ここ迄で53分が経過。

一人目の質問者「厳冬期などで避難経路が途絶した場合の対策はあるのか」

北電側の回答「道や自治体の要請によって、警察・自衛隊のヘリコプターが出勤可能云々」

おいおい真冬の荒天時にヘリコプターって大丈夫なの? と思っていたら案の定、他の質問者から指摘され「避難時の安全が確保されるまで、屋内退避です」と北電は回答。

結局、全体で15名から質問が出された。海底活断層の評価、火山噴火時の降灰の影響、運転時以外

のCO2排出の可能性等々: その都度、北電側から回答があるのは親切。しかしどれもマニュアルを読み上げるような答弁。中身も北電ホームページのQ&Aそのままではないか。こんなんだったらわざわざ出かけて来るんじゃないかった。

かかる説明会を幾度繰り返したとて、疑問が解消するわけでもなく、互いの溝が埋まるのでもない。どこまで続く平行線である。とどのつまりは原子力規制委員会が了承した、で思考停止。議論打ち切りである。しびれを切らした質問者のおひとり「第三者委員会の設置が必要」と述べられた。至極まっとうなご意見、大賛成である。こんな内容の説明会で再稼働されたら堪ったものではない。

気になったのは、幾つかの質問が「それはあなたのご意見として伺っております」と、司会者の判定のもとに一蹴された事である。質問と意見をどう線引きするのか示されていないのである。

広義な意味で、それこそが本質的な質問であろう。利用者との対話を軽視、というか舐め切っているのである。電気利用者と電力会社経営陣が膝を突き合わせてのせつかくの機会なのである、もう少し生産的な場にしなければ、お互いに徒労であろう。



筆者も有益な質問を抱えて挙手を繰り返したが、遂に指名されなかった。まことに残念。北海道電力株式会社、御社にとって大きな損失であったことよ。終了後、前方の一団がいつの間にか姿を消してしまっていたのは驚きだった。

## 地域連絡会報告

## 十勝連絡会

9月、10月も天候に恵まれ、4回のスタンディングアクションをしました。場所は9月が中札内村、更別村、10月が大樹町と芽室町です。3月から始まったアクション参加の延べ人数は229人、2020年からの累計参加者は1811人に上ります。行き交う車やトラックからのリアクションに励まされながら続けてきたアクションも、残すところ11月は幕別町、音更町。

最後は12月に帯広市で終了です。11月8日には総会があり、来年度の日程を大きく引き大会で決めます（盛り上がりそうですよ）。10月3日には帯広のホテルノースランドで開かれた北電の泊再稼働説明会に、多くの会員が参加しました。報道によると全体の参加者は54人。

質問は全部で14本で、うち半数は

当会の会員からの質問でした。中村廣治代表の詳報があり、まずので、2Pをご覧ください。

文責／菅原哲也



芽室町アクション 菅原哲也撮影

## さようなら原発

10・18に廃炉の会も実行委員会のメンバーである「STOP再稼働！ さようなら原発北海道集会」が札幌市大通公園で行われ「泊原発を廃炉に」「原発いらない」などの幟やプラカードを掲げ250人余りが小雨模様の中参加しました。

集会では呼びかけ人である北大名誉教授の小野有五さんが、研究者の科学的視点から規制委員会が合格をだした北電のインチキを厳しく指摘。また北海道がんセンター名誉院長の西尾正道さんが、医師の立場から海洋放出を続ける福島第一原発のトリチウムの人体に与える影響について鋭く指弾し健康の大切さを訴えました。

集会のち、大通西6丁目から駅前通りを北海道庁前で「原発いらない」「再稼働反対」のコールとともにデモ行進しました。



## 第6回 HAIRO クロスワードパズル

応募は14人、全員正解でした。正解者には拡散用ポケットティッシュ2個と図書カードをプレゼントします。



答え

A ノ  
B ー  
C ベ  
D ル

## 第11回 ハイロ山柳を募集

脱原発・核ゴミ・泊廃炉についての川柳を募集します

★ハガキに川柳を書いてハイロの会川柳係まで

★住所、氏名、連絡先を書いて一通に3句まで

★氏名は本名又はペンネーム又はイニシャル

★掲載＝川柳係が選定

★第11回の応募締め切りは2026年1月末日 問合せ先 090-6443-3195 (加藤まで)

大好評

## カンパのお礼

廃炉の会では、毎回のニュース発送時にカンパをお願いしています。今回も多くの方からカンパをいただきました。ありがとうございました。大切にに使わせていただきます。

## 第10回 ハイロ山柳

責任を とらずに済むから 稼働する

江別市 T・Nさん

東京に 原発作って みなさいよ

帯広市 佐藤さん

百年間 住めない土地に 誰がした(怒)

むつ市 森の借金トリさん

廃炉へと 世界の一步 間に合わそう

岩見沢市 ストロベリームーンさん

廃炉こそ 未来に続く 光る道

滝川市 いのさん

やっかいな「デブ・リ」どうする 国と俺

札幌市 シビルマンさん

## 控訴審 第8回口頭弁論 2025年12月26日(金) 14:30～

札幌高等裁判所(札幌市中央区大通西11丁目)

報告会 口頭弁論終了後 ～16:30

会場 高等学校教職員センター(札幌市中央区大通西12丁目)

2025年12月25日 発行／泊原発の廃炉をめざす会(ハイロの会)

タイトルイラスト：堀川 真 編集：加藤 浩道・久米田 佐和子・田中 和子・廣谷 淳一・間谷 真澄・村本 深雪 撮影：及川 文